(C)河北新報社

第69回河北文化賞贈呈式

不断の努力 東北に光

東北の発展に貢献した個人や団体を顕彰する第69回（2019年度）河北文化賞の贈呈式が17日、仙台市青葉区の仙台国際ホテルであった。受賞した3個人と2団体の代表は一層の研さんを誓い、推挙者らは惜しみない賛辞と今後への期待を寄せた。

（1面に関連記事）

東北大名誉教授の早稲田嘉夫氏は、光に近い速さで進む電子が放つ光を利用して物質の構造を解析する次世代型放射光施設について、東北大葉山キャンパス（仙台市青葉区）への設置構想に貢献した。東北大の早坂忠裕理事は「東日本大震災直後から復興のためにと関係機関に働き掛け、誘致に尽力した」と述べた。

東北医科薬科大医学部長の福田寛氏は、患者にほとんど苦痛を与えずに全身のがんの検査ができる陽電子放射断層撮影装置（PET）の開発と実用化などを果たした。東北大名誉教授の石田清仁氏は「学際的な研究で常に新しいテーマに挑戦し、PETの保険適用までつなげた功績は大きい」とたたえた。

国立天文台水沢VLBI観測所（奥州市）は、ノーベル賞級の成果とされる史上初のブラックホールの輪郭撮影に貢献。国際チームの一員として、所属する研究者らが観測や画像解析などで重要な役割を果たした。小沢昌記奥州市長は「成果は人類の発展への一歩であり、受賞は市民にとっても喜びだ」と強調した。

彫刻家・画家の武藤順九氏は、彫刻「風の環シリーズ」などで国際的に高い評価を集める。石巻市で整備が進む石巻南浜津波復興祈念公園のモニュメント制作などで被災地の復興にも寄与。宮城県の遠藤信哉副知事は「芸術分野での業績は大きく、国際的な人脈で宮城の発展にも尽力してもらった」と賛辞を寄せた。

会津大産学イノベーションセンター（会津若松市）は、起業家の育成や企業との連携などを推進する。大学発ベンチャーは33社と公立大では全国一を誇り、雇用の創出などで地域産業の振興に貢献。石橋史朗副センター長は「IT技術とアイデアを生かし『課題解決先進地域』を築けるよう取り組む」と強調した。

東北の発展に貢献する3個人2団体の功績をたたえた第69回河北文化賞の贈呈式＝仙台市青葉区の仙台国際ホテル

審査経過

東北の自治体、国や地方の教育・研究機関、文化団体、体育団体、経済団体に過去の受賞者を加えた約400の団体・個人に学術、芸術、体育、産業、社会活動などの各分野における候補の推挙を依頼。併せて河北新報社、東北放送のネットワークを通じて功績者の発掘に努めた。

2019年11月2日の締め切りまでに東北6県から25件の推挙があった。分野別の内訳は学術6件、芸術10件、体育2件、産業2件、社会活動5件だった。

推挙された候補は12月3日の審査委員会で各界有識者の意見を参考に具体的な功績、表彰歴、地域性などを総合的に検討。3個人、2団体への授賞を決めた。

今回の授賞を含めた受賞者は389件（287人、112団体）となった。

記念講演「研究は人と人と人と人」

山形大大学院
有機材料システム研究科教授
城戸 淳二氏

研究は人と人とのつながりが大切で、いい師匠に恵まれると大きな仕事ができる。私は早大時代は真面目な学生ではなかったが、指導教官だった土田英敏教授から「城戸君は希土類をやれ」と語呂合わせで声を掛けられたのをきっかけに、発光材料でもある希土類金属錯体の研究を始め、材料研究の面白さに目覚めた。

超一流の研究を知ることで、さらに勉強したい気持ちになった。留学先の米国の大学院で研究を続けていた時、「希土類は紫外線を当てるときれいに光る。プラスチックを光らせたら世の中が変わるのではないか」との思いが、後の有機EL（エレクトロルミネッセンス）につながった。

帰国後に赴任した山形大でも希土類の研究を続けたが、一方で有機ELの研究も始め、1993年に世界初の白色有機ELの開発に成功した。

有機ELで何かをするためには、協力してくれる仲間が必要と感じ、できるだけ知り合いをたくさんつくった。ドイツのドレスデン工科大教授とは一対一の関係から、ドレスデンと米沢の付き合いに発展した。

ほかにも高校の同窓会を通じて、子ども服メーカーとの共同研究が実現した。実家が仏壇メーカーという山形大の卒業生の縁で、有機ELを使った仏壇も実現した。

材料研究のおかげで、山形大には優秀な学生が来るようになった。研究機関に関するランキング、論文の引用回数でも上位を占める。

高校生対象のイベントや出前授業を通じて、若い世代の育成も進めている。産学連携による商品開発も、大学が絡むとニュースになるので積極的に発信している。

米沢、山形大をブランド化することで偏差値が上がり、優秀な学生がベンチャーに挑戦する。この「山形モデル」が地方創生につながると考えている。

きど・じゅんじ 1959年大阪府生まれ。米ニューヨークポリテクニック大大学院博士課程修了。専門は有機デバイス工学。山形大工学部助手、大学院理工学研究科教授などを経て2016年から現職。新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の有機ELプロジェクトの総括責任者、山形県産業技術推進機構有機エレクトロニクス研究所長なども務めた。

受賞者 喜びの声

日本の革新を支える

早稲田嘉夫氏(74)
東北大名誉教授

次世代型放射光施設の計画は、2011年12月に東北7大学約60人との共同提案で始まりました。東日本大震災からの復興と東北発展につながると考えたからです。多くの協力者の成果であり、個人での受賞に恐縮しています。物理や材料だけでなく医学、薬学など多様な分野に有効な施設です。東北の未来を開拓し、日本のイノベーションを支えることができます。多くの利用を期待しています。

がん診断 世界けん引

福田 寛氏(71)
東北医科薬科大医学部長

研究成果はいずれも、独創性や先見性に優れた師のおかげで実を結びました。がん診断法のPETは現在、全国400以上の施設で導入。脳科学分野では、データベース化した約3000人の脳画像に基づく脳加齢の研究がさらに進んでいます。PETは東北大が全力を挙げて基礎研究と臨床研究に取り組み、世界のパイオニアになることができました。共同研究者に心から感謝したいと思います。

連携強め新知見発信

国立天文台水沢ＶＬＢＩ観測所
代表 本間希樹所長

多くの方がブラックホールに興味を持つきっかけとなる成果が出せて良かったです。研究所は120年前に国際緯度観測事業のため、北緯39度08分に沿って世界6地点に設置された施設が出発点です。国際協力を長年続けてきましたが、今回の成果も国内外で協力し、各地の電波望遠鏡を組み合わせて観測した結果と言えます。今後も海外との連携を強めて、天文学の新たな知見の発信に努めます。

念願の展示施設開園

武藤 順九氏(69)
彫刻家・画家

生まれ故郷の宮城県で素晴らしい賞をいただき、感無量です。昨年は東京都昭島市に作品を展示する彫刻園を開くことができました。2000年にローマのバチカン宮殿に設けた彫刻「風の環」は、仙台城の石垣が土台になっています。バチカンは、伊達政宗が使節団を派遣したゆかりの地です。私の彫刻とともに、藩の歴史も現地で永久に振り返ってもらえるのではないかと思っています。

先進技術 次々と創出

会津大産学イノベーションセンター
代表 岩瀬次郎センター長

産学イノベーションセンターはICT（情報通信技術）を軸にした連携の場として、2002年に設立しました。東日本大震災以降は、地域の雇用創出と産業振興に努めています。卒業生の起業も後押しし、会津地方で先進的な技術が生まれるようになりました。今後さまざまな分野で、ICTを活用する場面が増えると思います。受賞を契機に、東北各地の人々との連携を深めていきたいです。